

あなたの身近にいつも…アキレス

**Achilles**



# アキレスのCSR 2015

詳細版

## 「社会との共生」 = 「顧客起点」

「顧客起点」のもと、お客様の真の満足と感動を戴ける製品の創造とサービスの提供を通して、豊かな社会の実現に貢献する。

### トップメッセージ

## ステークホルダーの皆様へ 新たな発見と驚きと感動をもたらす会社へ

アキレスの企業理念の中にあっただのは、まぎれもなく「CSR」でした。

アキレスの「瞬足」シリーズは、いまや子どもたちに絶大な人気を誇るシューズブランドです。このシューズ事業に代表されるように、私たちの製品の多くは常にお客様の身近に存在しています。私たちは創業以来、「社会との共生」=「顧客起点」という企業理念のもと、お客様の声に真摯に耳を傾け、より良いものづくりに生かすことで、地球環境や社会と共生していくことを自らの使命としてきました。つまり、CSRという言葉を意識する以前から、CSRをその企業活動の中に思考してきたのです。

シューズ事業の枠を超えて、さまざまな社会課題に対応しています。

考えてみれば、株価や売上高、ブランド力など企業を評価する基準にはさまざまなものがあります。私たちにとって大切なのは、アキレスの企業価値をいかに高めていくかであり、CSRを高品位に追求することもその一つと考えています。今でもアキレスと言えば、多くの方が「あの靴の…」と答えることでしょう。しかし、もはやアキレスをシューズ事業だけで語ることはできません。社会的課題への対応としてニーズが増加する省エネルギー関連製品、インフラ関連製品、環境対応製品、スポーツ健康関連製品など実にさまざまな製品を送り出しています。加えて、子どもたちの足の健康を考える「足育(そくい)活動」など、人々をより豊かな暮らしへと啓蒙するさまざまな取り組みを推進しています。

事業環境が大きく変化した2014年、今、さらなる成長を模索しています。

2014年は、「イスラム国」問題や長期化するウクライナ情勢が世界経済に不安定な影響を及ぼし、円安の定着は原油価格低下の効果を薄め、輸入原材料や製品価格を上昇させるなど私たちを取り巻く事業環境が大きく変化しました。特に為替への対応に難しい判断が求められましたが、半導体やスマートフォン関連の静電気対策材料が好調に推移しました。今後は、2017年の大型商業施設の省エネ基準の義務化、2020年の新築物件の省エネ基準の義務化といった流れを受けて、断熱素材を中心とした建材事業が新たな成長分野として期待されています。

アキレスの海外売上比率は現在17~18%ですが、グローバル展開を積極的に進めることで、将来的にはこれを30%程度まで高めたいと考えています。

同業他社にはない武器で、次世代への可能性を追求しています。

2014年度は、さまざまな改革を決断した変革の1年でもありました。中でも、業務の効率化を狙いとした2015年2月の北新宿への本社移転は、68年の歴史の中でも大きな転換点となることでしょう。また2016年1月には、山形県金山町にウレタン加工会社を新設します。これは豊かな自然と共に生きる金山町の考え方に共感しての進出ですが、同時に町の過疎化や高齢化、雇用の問題に新たな選択肢を提示するものでもあります。CSRを全社的な取り組みとして実践し、多くのステークホルダーの皆様へ新たな発見と驚きと感動をもたらす会社へ。グローバルな視点で見た優位性を生かすとともに、同業他社にはない新素材開発力を武器に、私たちはこれからも次世代への可能性を追求し続けていきます。

2015年9月



代表取締役社長

伊藤 亨

# CONTENTS

企業理念・トップメッセージ	1
事業内容	3
会社概要	4



## 環境のために

環境マネジメントシステム	5
地球温暖化対策	7
省エネルギー	8
廃棄物削減・3R活動推進	9
大気汚染防止(環境負荷物質)	9
事業場別データ	10
環境活動の歩み	11
社会との共通価値創造につながる取り組み	12



## 社会と共に

品質への取り組み	13
労働安全衛生・防火防災への取り組み	14
お客様と共に	16
株主様と共に	16
取引先様と共に	17
従業員と共に	17
地域社会と共に	20



## マネジメントについて

コーポレートガバナンス	22
コンプライアンス	23
CSRマネジメント	24

## このレポートについて

### 【報告書対象範囲】

アキレス株式会社および国内子会社  
※範囲が異なるものについては個別に明記します

### 【報告対象期間】

2014年4月～2015年3月

### 【発行時期】

前回：2014年9月  
今回：2015年9月  
次回：2016年9月(予定)  
※年1回発行

### 【編集方針】

アキレスグループは「『顧客起点』のもと、お客様の真の満足と感動を戴ける製品の創造とサービスの提供を通して、豊かな社会の実現に貢献する」という企業理念を定め、「健康」「快適さ」「楽しさ」を感じることができる製品やサービスを提供することが、グループにとっての重要な課題であると位置づけています。また持続可能な社会の発展に貢献する活動として、「省エネルギー化」や「地球温暖化防止」にも積極的に取り組んでいます。これらの課題への対応には株主、従業員、取引先、顧客などさまざまなステークホルダーとの連携した取り組みが重要であると考えています。本レポートでは、これらの活動に関する詳細な情報をESG(環境、社会、ガバナンス)で分類し、パフォーマンスデータと共に活動報告として記載しています。

### 【参考にしたガイドライン・原則・技術規定】

GRI「サステナビリティ・レポート・ガイドライン」第3.1版  
ISO-26000(社会的責任に関する手引)  
ISO-14001(環境マネジメントシステム)

## CSR報告ツールについて

### 【詳細版】※本誌

アキレスのCSRの考え方や取り組みについて、詳細に紹介しています。

### 【冊子版】

事業部門や拠点ごとのCSRの取り組みを、数値や従業員の声を通して紹介します。



アキレスのCSR

検索

<http://www.achilles.jp/company/06/>



# 事業内容

## シューズ事業部門

### シューズ事業部

キッズ、メンズ、  
レディース  
シューズ

KIDS  
キッズ



MEN'S  
メンズ



LADIES'  
レディース



## プラスチック事業部門

### 車輻資材事業部

車輻内装用資材、  
一般塩ビレザー、  
合成皮革など



### 化成品事業部

一般用・工業用・  
農業用フィルムなど



### 建装事業部

住宅用内装資材



### 引布販売部

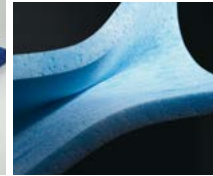
防災テント、ボート、  
住宅排水管用  
フレキシブル  
ジョイントなど



## 産業資材事業部門・開発営業部

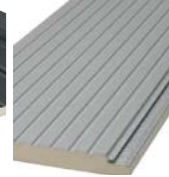
### ウレタン事業部

軟質ウレタン  
発泡製品、  
および2次加工製品



### 断熱資材事業部

硬質ウレタンフォーム  
断熱製品、  
現場発泡用硬質  
ウレタンフォームなど



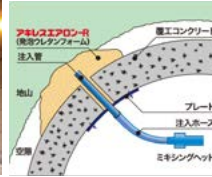
### 工業資材販売部

静電気対策製品、  
反応射出成形品など



### 開発営業部

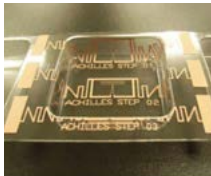
「アキレス  
Tn-p工法」など  
インフラ関連技術



## チーム・プロジェクト

### STEPプロジェクト

独自の無電解  
めっき処理技術  
[STEP]



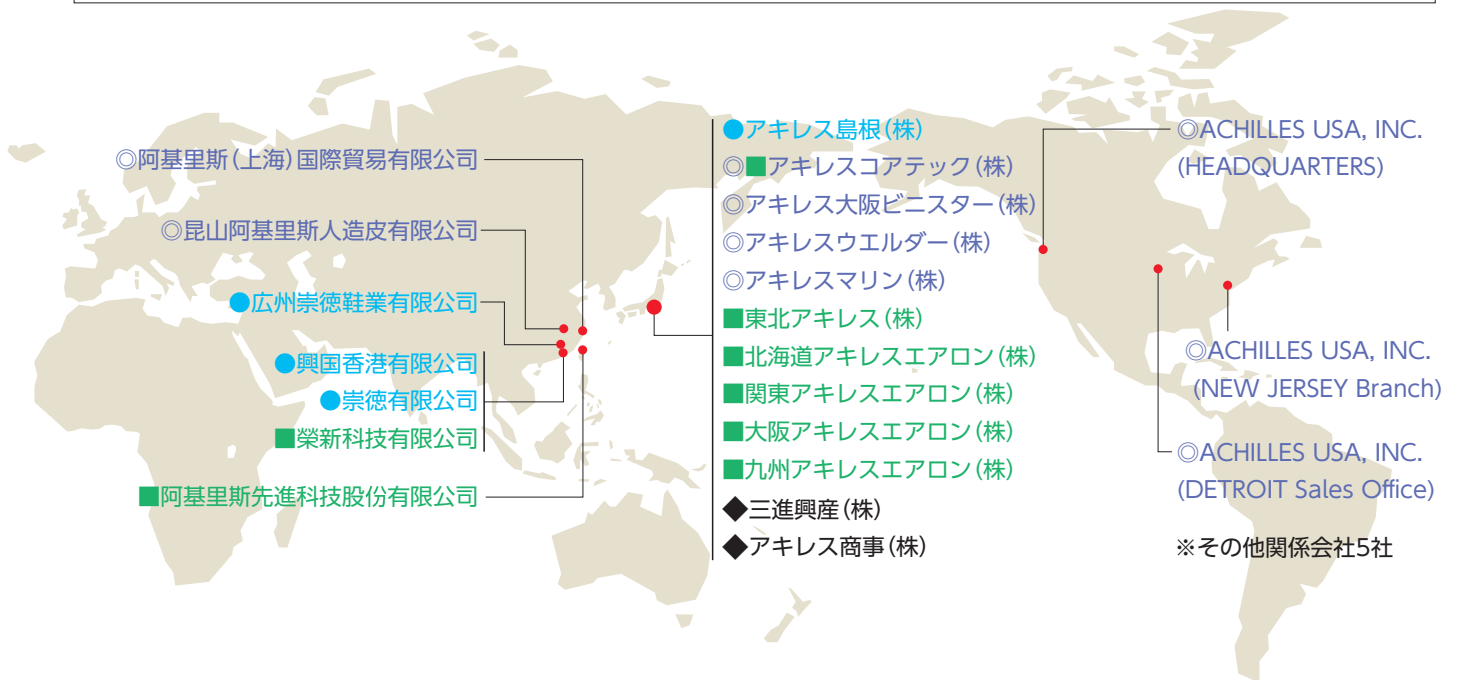
## 会社概要

設立 1947年5月  
 代表者 代表取締役社長 伊藤 守  
 資本金 146億4千万円  
 従業員数 1,533人(国内グループ) ※2015年3月末  
 上場証券取引所 東京証券取引所(市場第一部)  
 本社 〒169-8885 東京都新宿区北新宿 2-21-1  
 新宿フロントタワー

関西支社 〒530-0005 大阪府大阪市北区中之島 2-2-7  
 中之島セントラルタワー  
 営業所 北海道/仙台/新潟/北関東/東京/大阪/  
 広島/九州  
 工場 足利第一/足利第二/滋賀第一/滋賀第二/  
 美唄/九州

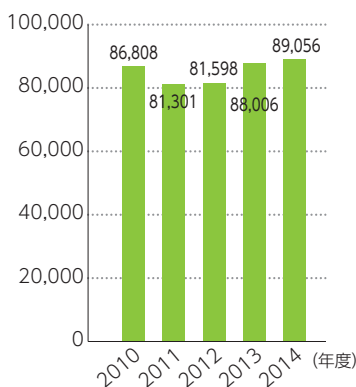
## グループ会社

●…シューズ事業部門    ◎…プラスチック事業部門    ■…産業資材事業部門    ◆…その他

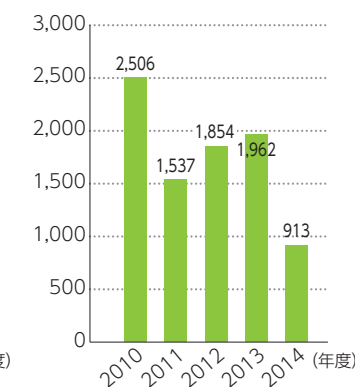


## 連結売上高・利益年度別推移

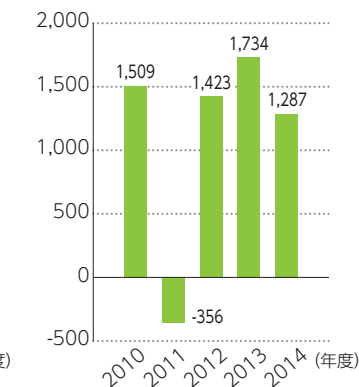
売上高(百万円)



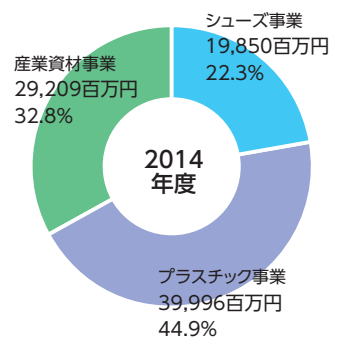
営業利益(百万円)



当期純利益(百万円)



## セグメント別売上高



※その他、財務情報および大株主に関する情報は有価証券報告書をご参照ください

# 環境のために

地域および地球規模の環境保全は、シューズ、ゴム、プラスチック製品といった化学原材料による製品の製造を中心に事業展開するアキレスにとって、極めて重要な使命です。当社は事業活動が環境と深く関わっていることを認識し、その事業活動の中で環境方針、環境目的・目標を定めて、環境負荷低減につながる生産工程および製品づくりに努め、持続可能な社会の発展に貢献します。

※ P.5～11で報告する数値は、ISO-14001認証取得工場の集計です

## 環境マネジメントシステム

### アキレスグループ環境方針

アキレスグループは、「社会との共生」＝「顧客起点」の企業理念のもと、お客様の真の満足と感動を戴ける製品の創造とサービスの提供を続けることを基本に、シューズ、ゴム、プラスチック製品の製造、販売を主体に事業活動を推進しています。

環境問題への取り組みは人類共通の課題であり、企業の存在と活動の必須の要件として、環境負荷の低減に主体的に活動するとともに、新たな価値を創り続けることで、豊かで快適な社会づくりに貢献し、高い信頼を得る企業を目指します。

1. 事業活動による環境への影響を的確に把握し、環境目的・目標を定め、その実現を図ります。
2. 環境監査等により定期的に環境管理システムを見直し、継続的改善を図るとともに、環境汚染の予防を徹底します。
3. 環境に関係する法令・条例・協定および会社方針・規則等を遵守します。
4. 事業活動を通じて、環境配慮型の商品開発、地球温暖化防止と省エネルギー、3R（リデュース、リユース、リサイクル）の推進を行い、健全な環境の維持・向上に努めます。
5. 事業活動が環境に与える影響を全員が認識し、適切な行動が取れるよう教育・社内広報活動に努め、環境保全への意識向上を図ります。

### ISO-14001 への取り組み

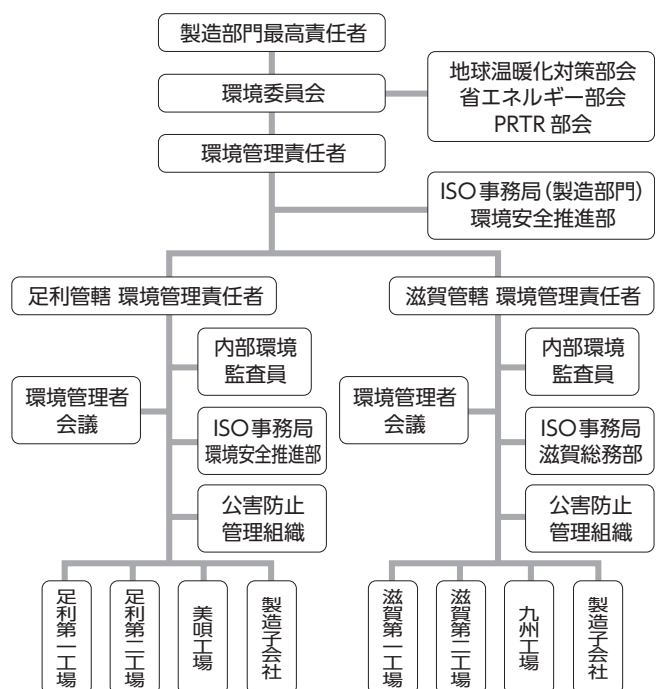
地球環境保全のため、そしてアキレスグループの体質強化のため、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO-14001をツールとして活用し、アキレスグループ環境方針に基づいた目的・目標を設定の上、継続的に環境改善活動に取り組んでいます。2014年度は5月20～22日の日程で、第4回更新後第2回維持審査が日本化学キューエイ（株）により行われました。軽欠

点1件の指摘事項があったものの、システムは維持されているとの評価でした。指摘事項については水平展開を図り、環境管理活動に反映させてレベルアップを進めました。

### ●ISO-14001：2004認証取得事業場 JCQA-E-0160

足利第一工場	2001年9月拡大取得
足利第二工場	2000年7月認証取得
滋賀第一工場	2002年9月拡大取得
滋賀第二工場	2002年9月拡大取得
美唄工場	2002年9月拡大取得
九州工場	2002年9月拡大取得
アキレスマリン(株)	2001年9月拡大取得
アキレスウエルダー(株)	2001年9月拡大取得
関東アキレスエアロン(株)	2001年9月拡大取得
大阪アキレスエアロン(株) 滋賀営業所	2002年9月拡大取得
北海道アキレスエアロン(株)	2002年9月拡大取得

### 環境管理推進組織



2014 年度活動結果概要・2015 年度以降目標

項目	2014 年度目標 (中長期目標を含む)	2014 年度実績	評価	2015 年度以降目標	掲載ページ
地球温暖化防止と省エネルギーの推進	●温室効果ガス排出量を2010年度に対し、2014年度までに4%削減(2020年度までに10%削減)	●温室効果ガス排出量は2010年度に対し、6%削減し目標を達成しました ※2010年度排出係数採用	○	●温室効果ガス排出量を2010年度に対し、2015年度までに5%削減(2020年度までに10%削減)	P.7~8
	●エネルギー原単位を前年度比1%削減	●エネルギー原単位を前年度比1.3%削減し目標を達成しました	○	●エネルギー原単位を前年度比1%削減	
廃棄物削減および3R活動推進	●3R活動推進を基本に、廃棄物の排出量を2010年度に対し、2014年度までに8%削減(2020年度までに20%削減)	●廃棄物排出量は、生産構成の変化もあり、2010年度比7.5%増加し未達成となりました	×	●3R活動推進を基本に、廃棄物の排出量を2010年度に対し、2015年度までに10%削減(2020年度までに20%削減)	P.9
	●完全ゼロエミッション(最終処分率0.1%未満)を2020年度までに達成	●製造部門全体で、最終処分率は0.03%となり達成しました	○	●完全ゼロエミッション(最終処分率0.1%未満)を2020年度までに達成	
環境負荷物質の大気汚染防止	●環境負荷物質(DMF、ジクロロメタン、トルエン、MEK、酢酸エチル)の大気排出量を2010年度に対し、2014年度までに12%削減(2020年度までに30%削減)	●環境負荷物質の大気排出量は、2010年度に対し18%削減し目標を達成しました	○	●環境負荷物質(DMF、ジクロロメタン、トルエン、MEK、酢酸エチル)の大気排出量を2010年度に対し、2015年度までに15%削減(2020年度までに30%削減)	P.9~10
環境管理(廃棄物削減、省エネなどの改善につながる業務の効率化と環境配慮型の商品開発)	●仕損費率削減(目標:対前年度実績20%削減)	●高い目標値を掲げ推進しましたが、未達成でした	×	●仕損費率削減(目標:対前年度実績20%削減)	P.12
	●業務の効率化による節電	●各事業所にて節電を推進しました	○	●環境配慮率*の低減(目標:対前年度実績以下) ※(エネルギー使用料+廃棄物処理費)÷生産高×100	
	●職場環境改善(5S)による体質強化	●「AMT(アキレス・ムダ・取り)活動」が定着し、職場環境の改善(5S)を推進しました	○	●職場環境改善(5S)による体質強化	
	●環境負荷を考慮した商品開発・研究開発の推進・上市	●商品開発・研究開発計画に沿って推進し、新商品(HFOを使用した建築物断熱用吹き付け硬質ウレタンフォームなど)を上市しました	○	●環境負荷を考慮した商品開発・研究開発の推進・上市	

環境事故などに対する是正処置

2014年度は1件の外部苦情があり、住民および行政への対応を行いました。構内において小規模な発煙・発火事故、原材料・油膜の流出事故が発生しましたが、外部へ流出させることなく対処しました。その後の原因追及・恒久対策について検討・実施し、設備面、管理面の両面において是正を完了しました。また2014年度の各事業場の水質、大気および騒音の実績値は、全て基準値内であり問題はありませんでした。

意識啓蒙活動

環境保全活動は、従業員一人ひとりの意識と行動がなければ実施できません。

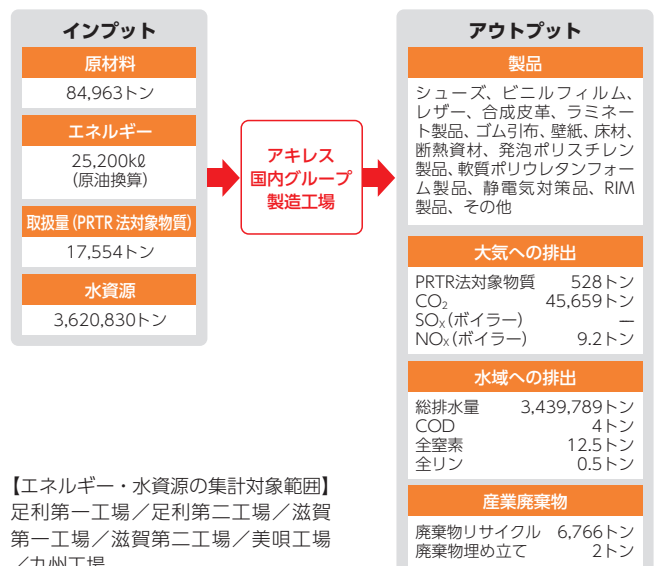
当社では、環境意識向上のため、製造部門従業員全員に当社の環境方針などを記した「環境カード」を配布し、新入社員研修、階層別研修などの社内研修において環境保全活動の重要性を周知しています。

また専門知識の必要な部署においては、さらなる環境意識と知識レベル向上に努め、専門知識資格取得にも取り組んでいます。

環境負荷の全体像

当社では事業活動に伴う物質・エネルギーのフローを定量的に把握し、会社の持続的発展に向けて、事業活動での環境負荷の低減、資源の有効活用に努めています。下記に、アキレス国内グループ製造工場の環境負荷の全体像を示します。

●マテリアルバランス





## 生物多様性への取り組み

### 生物多様性についての基本的な考え方

当社では、人間社会が生態系から恩恵を受ける一方で、大きな負荷を掛けていることを認識し、生物多様性の保全に貢献する取り組みを推進しています。

### 日光杉並木オーナー制度

日光杉並木は、およそ370年前に植えられた杉の巨木が連なる壮大な街道です。三つの街道のうちの一つである例幣使街道が足利市を通っていることもあり、当社とも深い関わりがあります。当社は、近年の周辺環境の悪化から杉並木を保護するための「日光杉並木オーナー制度」に賛同し、保全に協力しています。



日光杉並木

### 「水質事故被害拡大防止訓練」へ参加

近畿の「水がめ」である琵琶湖を含む周辺環境の保全は、この地域で操業する企業にとって重要な社会的責任の一つです。当社としても事故を起こさないことはもちろん、滋賀県ならびに湖南・甲賀環境協会などが万が一の事故発生を想定して行っている「水質事故被害拡大防止訓練」に積極的に参加し、生態系を守っている周辺環境の保全の重要性を再認識しています。2014年10月29日に行われた訓練は、協会会員・県・市環境行政など総勢158人が参加する、大規模なものとなりました。



滋賀県でのオイルフェンスによる油のせき止め訓練  
(写真：湖南・甲賀環境協会提供)



滋賀県での流失防止用土のう作製訓練  
(写真：湖南・甲賀環境協会提供)

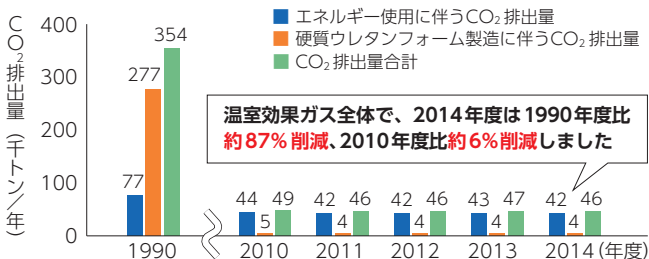
## 地球温暖化対策

### 温室効果ガス排出量推移

当社が排出する温室効果ガスとしては、エネルギー使用(燃料、電気など)に伴う二酸化炭素排出と、硬質ウレタンフォーム製造に伴う二酸化炭素(フロン系をCO<sub>2</sub>に換算)が主体です。

当社は現在までに継続して、積極的な環境設備投資によるエネルギー使用量の削減と、ノンフロン化への設備切り替えを進めました。この結果、温室効果ガス排出量は前年度比約2%減少し、1990年度比約87% (2010年度比約6%) 削減することができ、目標を達成しました。今後は、さらなる温室効果ガス排出量の削減を推進していきます。

#### ●温室効果ガス(CO<sub>2</sub>)排出量の年度別推移



※エネルギー使用に伴うCO<sub>2</sub>排出量は、事業活動に関わるエネルギー(燃料、電気など)に伴い発生するCO<sub>2</sub>です。またCO<sub>2</sub>排出量は、地球温暖化対策推進法(改正温対法：2006年4月施行)に基づく算出方法・排出係数一覧から算出したものです。なお東日本大震災以降、原発停止により天然ガス(火力発電)使用が増え、電気事業者の排出係数が大幅に大きくなったことから、2010年度以降は2010年度の排出係数で算出しています。

※硬質ウレタンフォーム製造に伴うCO<sub>2</sub>排出量は、原液製造時および発泡時に漏洩するフロン系をCO<sub>2</sub>換算したものです。またフロン系の地球温暖化係数(CO<sub>2</sub>換算係数)は、IPCCの3次レポートから準用し、自主的に算出したものです。

【対象範囲】足利第一工場/足利第二工場/滋賀第一工場/滋賀第二工場/美唄工場/九州工場/アキレスマリン(株)/アキレスウエルダー(株)

### 物流の環境保全活動

#### 二酸化炭素削減活動の取り組み

2014年度の取り組みとして、モーダルシフトの拡大展開、および積載率・大型車利用率の向上を推進しました。また輸送の効率化とコスト低減を目的として、滋賀工場と連携して関東⇄関西便の有効活用を推進し、継続実施中です。



鉄道輸送用のコンテナへの積み込み

#### 二酸化炭素排出量実績

2014年度は、出荷量の減少により輸送トンキロが減少し、CO<sub>2</sub>排出量も前年度に対して減少しました。モーダルシフト率は向上し、輸送トンキロの減少率4.2%に対し、CO<sub>2</sub>排出量は5.1%減となりました。

#### ●二酸化炭素排出量

項目(単位)	2013年度	2014年度	前年度比
輸送トンキロ(千トンキロ)	77,688	74,421	95.8%
発生するCO <sub>2</sub> の排出量(t-CO <sub>2</sub> )	10,702	10,161	94.9%

※CO<sub>2</sub>排出量(t-CO<sub>2</sub>) = エネルギー使用量(GJ) × 排出係数(経済産業省より)  
※単位：輸送トンキロ=トンキロ(貨物重量「トン」×輸送距離「キロメートル」)



## 省エネルギー

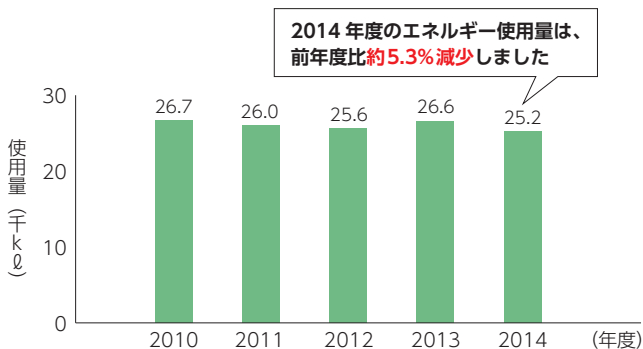
### 省エネルギー活動

当社では、1979年の省エネルギー法の制定に伴い足利第一工場がエネルギー管理指定工場となったことをきっかけに、省エネルギーの活動を本格的に開始しました。2009年5月にはエネルギー使用の合理化をより一層推進することを目的に省エネルギー法が改正され、エネルギー管理が工場・事業場ごとから企業全体に変わりました。当社は省エネルギーの重要性をさらに認識し、省エネルギー活動を環境負荷軽減の一環として位置づけ、全社を挙げ取り組んでいます。

### エネルギー使用量(原油換算)

2014年度のエネルギー使用量は、主なエネルギーである電気と燃料の使用量を低減することを目的に取り組んだことから、前年度に対して約5.3%(1.4千kℓ/年)減少しました。

#### ●エネルギー使用量(原油換算)の年度別推移



### エネルギー原単位

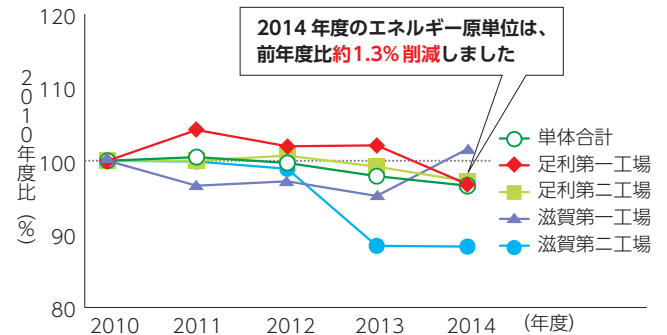
2014年度は、目標の「2013年度使用実績に対し、2014年度はエネルギー原単位1%削減」に向けて活動し、エネルギー原単位では前年度比約1.3%削減しました。

具体的には、新混練機導入や配管・バルブなどの保温強化、各装置のインバーター化や高効率化機器への更新、エア圧力・温調温度の適正化、照明(水銀灯・蛍光灯)のLED化などの省エネルギー改善に取り組み、生産物量の増加による生産効率アップも加わり、目標を達成しました。

今後も対策を継続し、目標である前年度比エネルギー原単位1%削減を推進していきます。

【対象範囲】 足利第一工場／足利第二工場／滋賀第一工場／滋賀第二工場／美唄工場／九州工場

#### ●全社および管理指定工場ごとのエネルギー原単位の年度別推移



### 取り組み事例

#### 設備の改造・導入による使用エネルギー削減

2014年度は前述の前年度比エネルギー原単位1%削減を目標に、設備の導入・改造などを図りました。

#### ●設備の改造・導入の主な内容と使用エネルギー削減効果(原油換算値)

内容	削減効果 (kℓ/年)
配管・バルブなどの保温強化、蒸気漏れ防止	70
LED照明・Hf蛍光灯の採用	70
コンプレッサーの更新、エア漏れ防止	20
新混練機導入による省エネ	20
トップランナー空調設備への更新	20
変電所での高効率変圧器への更新	20
その他(ポンプ・モーターのINV化など)	80
<b>合計</b>	<b>300</b>

### 太陽光発電設備増設

2014年には、足利第二工場(シューズ物流センター建屋屋上)および滋賀第二工場(敷地内の大阪アキレスエアロン(株)建屋屋上)に太陽光発電設備を増設しました。足利第二工場は、292kWから529kWへ、滋賀第二工場は、503kWから1,006kWに能力アップし、滋賀第二工場はメガソーラーになりました。

#### ●太陽光発電設備

	設備容量 (kW)	発電電力量 (千kWh/年)	CO <sub>2</sub> 削減量* (t-CO <sub>2</sub> /年)
足利第二工場	529	432	140
滋賀第二工場	1,006	670	288
<b>合計</b>	<b>1,535</b>	<b>1,102</b>	<b>428</b>



足利第二工場の太陽光発電設備

滋賀第二工場の太陽光発電設備

\*足利第二工場は東京電力、滋賀第二工場はエネットの電気事業者排出係数(2010年)を使用

## 廃棄物削減・3R 活動推進

循環型社会の実現を目指して、3R\*活動を推進し環境負荷の低減を図る取り組みを、ISO-14001の環境管理活動の中で進めています。特に廃棄物の発生量自体の削減を目指す発生源対策(リデュース)を重視し根本原因を追及、廃棄物の発生抑制に注力しています。

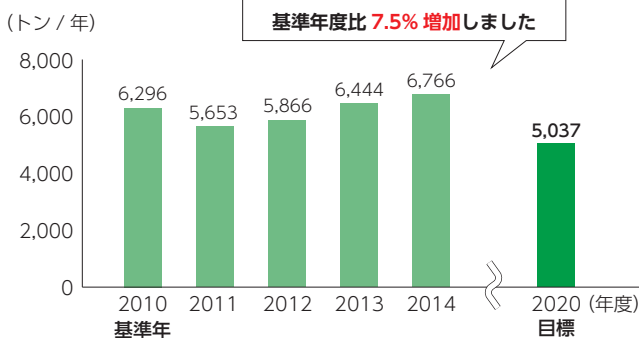
\*廃棄物の発生抑制(リデュース)、部品などの再利用(リユース)、使用済み製品などとしての再利用(リサイクル)

### 廃棄物等削減活動結果

2014年度の廃棄物等\*総排出量は、基準年度(2010年度)比で470トン増加となり、2014年度の目標「廃棄物の排出量を2010年度に対し、2014年度までに8%削減」については未達という結果となりました。生産量の増加や生産構成の変化が原因と考えられますが、今後は分別・選別の徹底やリサイクルシステム(特にリデュース、リサイクル)導入、既存のリサイクルフローの見直しなどを展開し、廃棄物発生量の削減に努めていきます。

\*廃棄物等は、産業廃棄物と再資源化物を含む

#### ●廃棄物等総排出量



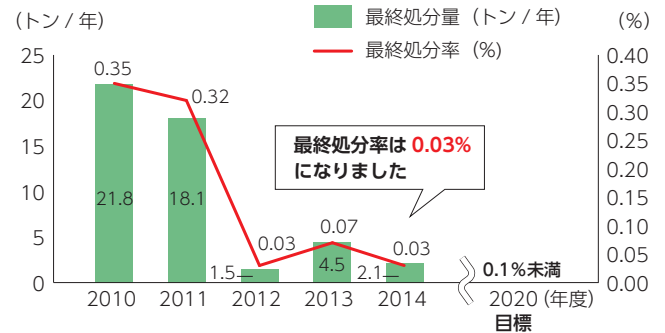
### 最終処分量状況

アキレスグループ環境目的・目標である「完全ゼロエミッション(最終処分量\*0.1%未満)を2020年度までに達成」を目指して活動を行った結果、2014年度最終処分量は約2.1トンで、最終処分量率は0.03%となり、2013年度の0.07%に引き続き、完全ゼロエミッションを達成しました。

今後は、完全ゼロエミッションの確立を目指し、分別・選別のさらなる徹底およびリサイクルに取り組んでいきます。

\*最終処分量率(%) = 最終処分量/総排出量 × 100

#### ●最終処分量および最終処分量率



## 大気汚染防止 (環境負荷物質)

「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律(PRTR\*1法)」に則り、毎年第一種指定化学物質の排出量・移動量の実績を監督官庁に報告しています。大気汚染防止の取り組みとして、PRTR法対象物質およびPRTR法対象物質以外のVOC\*2物質の中で特に大気への排出量の多い5物質(DMF、ジクロロメタン、トルエン、MEK、酢酸エチル)を「環境負荷物質」として、アキレスグループ環境目的・目標「環境負荷物質の大気汚染防止」の対象とし、全製造部門で大気排出量の削減を推進しています。

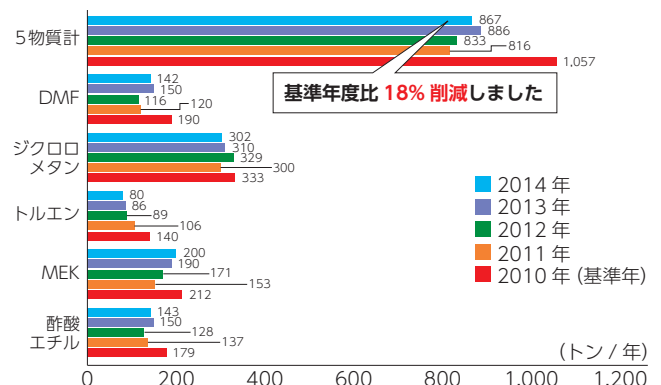
\*1 Pollutant Release and Transfer Register : 有害性のある多種多様な化学物質が、どこから、どのくらい、環境中に排出されたか、廃棄物として移動したかを把握し、集計・公表する仕組み

\*2 Volatile Organic Compounds : 揮発性有機化合物の略称。空气中に揮発する性質のある有機化合物

### 環境負荷物質の大気排出量結果

2014年度の環境負荷物質を集計した結果、それぞれの大気排出量は2010年度に対し、DMFが25%減、ジクロロメタンが9%減、トルエンが43%減、MEKが6%減、酢酸エチルが20%減となりました。環境負荷物質全体では18%削減し、2010年度に対し12%削減する2014年度目標を達成しました。

#### ●環境負荷物質の大気排出量



### 大気排出量削減計画

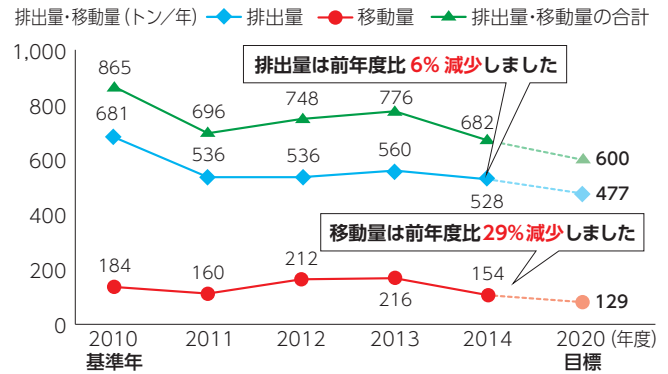
アキレスグループは「環境負荷物質の大気汚染防止」を全製造部門の共通テーマとしています。中長期目標としては「環境負荷物質の大気排出量を2010年度に対し、2020年度までに30%削減」を掲げ、労働安全衛生法、PRTR法および大気汚染防止法に基づき、大気排出量を計画的に管理・削減し、大気汚染防止に取り組んでいます。具体的には、VOC物質から非VOC物質の代替物質への移行などにより、大気排出量の削減を進めています。

### PRTR 第一種指定化学物質削減活動結果

PRTR法に則り、該当物質の排出量などを把握した結果、2014年度のPRTR第一種指定化学物質の排出量は528トン/年、移動量は154トン/年となりました。

前年度に対しては、排出量は6% (32トン/年)、移動量では29% (62トン/年) 減少しました。各事業場の主な対象物質ごとの排出量・移動量は「事業場別データ」の通りです。

#### ●PRTR対象化学物質の排出量・移動量



## 事業場別データ (2014年4月~2015年3月)

#### ●PRTRデータ

PRTR 法対象 第一種指定化学物質名	足利第一工場			足利第二工場			美唄工場			アキレスマリン(株)		
	排出量		移動量	排出量		移動量	排出量		移動量	排出量		移動量
	大気	水域	廃棄物	大気	水域	廃棄物	大気	水域	廃棄物	大気	水域	廃棄物
キシレン	0.41	0.00	0.02	3.30	0.00	0.17	-	-	-	-	-	-
ジクロロメタン(塩化メチレン)	120.00	0.00	2.20	4.10	0.00	0.13	13.00	0.00	0.93	-	-	-
N,N-ジメチルホルムアミド(DMF)	140.00	0.92	8.90	-	-	-	-	-	-	-	-	-
トルエン	70.00	0.00	4.70	7.00	0.00	0.37	-	-	-	3.10	0.00	0.00
フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	1.00	0.00	25.00	0.30	0.00	97.00	-	-	-	-	-	-

PRTR 法対象 第一種指定化学物質名	滋賀第一工場			滋賀第二工場			九州工場		
	排出量		移動量	排出量		移動量	排出量		移動量
	大気	水域	廃棄物	大気	水域	廃棄物	大気	水域	廃棄物
キシレン	0.38	0.00	0.00	-	-	-	-	-	-
ジクロロメタン(塩化メチレン)	-	-	-	160.00	0.00	7.60	-	-	-
トリレンジイソシアネート	-	-	-	0.09	0.00	0.00	-	-	-
トルエン	0.02	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	-	-	-
フタル酸ビス(2-エチルヘキシル)	0.90	0.00	0.00	-	-	-	-	-	-
ポリ(オキシエチレン)ノニルフェニルエーテル	-	-	-	0.00	0.00	0.05	0.00	0.00	0.01

PRTR法該当物質：2014年度の年間取扱量1トン以上の第一種指定化学物質のうち、排出量・移動量が多い上位物質のみ掲載(単位:トン/年)  
横線の物質は報告対象外(取扱量1トン/年未満)

#### ●水質

測定項目	単位	基準値	足利第一工場	足利第二工場 No.1*	足利第二工場 No.2*	基準値	滋賀第一工場 No.1*	滋賀第一工場 No.2*	基準値	滋賀第二工場
水素イオン濃度(PH)	PH	5.8~8.6	7.2	7.5	7.2	6.0~8.5	7.5	7.5	6.0~8.5	7.8
生物化学的酸素要求量(BOD)	mg/ℓ	25	1.5	1.6	2.5	25	1.4	1.5	30	1.0未満
浮遊物質(SS)	mg/ℓ	50	1.2	1.4	2.2	25	4.1	2.1	70	2.4
ノルマルヘキサン抽出物質含有量	mg/ℓ	5	0.5未満	0.5未満	0.5未満	5	0.5未満	0.7	5	0.5未満
窒素含有量(T-N)	mg/ℓ	120	3.2	3.8	3.5	12	0.53	0.62	12	3.0
リン含有量(T-P)	mg/ℓ	16	0.1未満	0.1	0.1	1.2	0.05未満	0.68	1.2	0.05未満

※水質は、足利第二工場は2カ所、滋賀第一工場は2カ所で測定されたものです。測定項目(PH、DOを除く)の実績値は、基準値以下であること。

#### ●大気

測定項目	単位	基準値	足利第一工場	基準値	滋賀第一工場
SOx(ボイラー)	K値規制	7	-	17.5	-
NOx(ボイラー)	ppm	150	31	150	64

都市ガス使用のため、SOxの排出なし



## 環境活動の歩み

- 1998年 ● ISO-14001 認証取得に向けて準備スタート  
● 廃棄物回収システムを変更

---

- 1999年 ● ISO-14001 認証取得に向けての環境推進組織を構築  
● 環境委員会発足  
● 環境委員会傘下の専門部会として、廃棄物減量部会、省エネルギー部会を設置  
● ISO-14001 認証取得キックオフ宣言  
● アキレスグループ環境方針発表  
● アキレスグループ環境管理マニュアル初版発行  
● 「環境カード」作成・配布  
● 環境ニュース第1号発行

---

- 2000年 ● 滋賀第一工場冷却用循環水槽・雨水排水槽設置  
● 足利第二工場ISO-14001 認証取得

---

- 2001年 ● 壁紙製造燃焼式脱臭装置導入  
● 足利第一工場、アキレスマリン(株)、アキレスウエルダー(株)、関東アキレスエアロン(株) ISO-14001 認証拡大取得

---

- 2002年 ● ラミネート機排煙処理装置導入  
● リサイクルボード製造設備導入  
● ノンフロン化設備導入/第1期(足利)  
● フィルム製造排煙処理装置導入  
● 滋賀第一工場、滋賀第二工場、美唄工場、九州工場、北海道アキレスエアロン(株)、大阪アキレスエアロン(株) 滋賀営業所ISO-14001 認証拡大取得

---

- 2003年 ● 企業活動に関する基本方針および企業行動基準制定  
● 会社新3ヵ年計画の構造改革プロジェクトの一つとして「3Rプロジェクト」発足  
● ノンフロン化設備導入(滋賀)  
● 「環境報告書2003」を初発行

---

- 2004年 ● ゼロエミッション3モデル事業所において「ゼロエミ活動」スタート  
● レザーリサイクル設備導入  
● 液化炭酸ガス発泡設備導入

---

- 2005年 ● 全製造部門において「ゼロエミ活動」本格スタート  
● ノンフロン化設備導入/第2期(足利・美唄)

---

- ノンフロン化(超臨界炭酸ガス発泡)付帯設備導入(足利)  
● 引布排煙脱臭(吸着剤方式)装置導入  
● 温室効果ガス排出量削減検討専門部会として、環境委員会傘下に「地球温暖化対策部会」を発足

---

- 2006年 ● PCB廃棄物処理早期登録申請完了(足利・滋賀)  
● 省エネ対応フィルム製造装置更新  
● ラミネート排煙脱臭(吸着剤方式)装置導入(足利)  
● 塩ビペースト残液ペレット化設備導入

---

- 2007年 ● 滋賀第二工場焼却炉廃止  
● 都市ガス化設備導入/第1期・2期(足利)、第1期(滋賀)  
● 特殊フィルム製造排水処理設備導入(足利)  
● NEDO(新エネルギー産業技術総合開発機構)の助成を受け、新規高性能断熱材の開発をスタート  
● 企業行動憲章制定  
● LC1号機VOC排ガス処理装置導入

---

- 2008年 ● 全製造部門において、完全ゼロエミッションの目標を達成(最終処分率3%未満)  
● 足利第二工場焼却炉廃止  
● AMT(アキレス・ムダ・取り)活動開始

---

- 2009年 ● 都市ガス化設備導入/第3期(足利)、第2期(滋賀)  
● ノンフロン硬質ウレタンスプレー設備導入(足利)

---

- 2010年 ● 都市ガス化設備導入/第4期(足利)

---

- 2011年 ● PCB廃棄物処理/第1・2回(高圧コンデンサ25台)  
● 東日本大震災対応  
● 壁材リサイクル設備遠心分離機導入

---

- 2012年 ● 全製造部門において、完全ゼロエミッションの目標を達成(最終処分率0.1%未満)  
● PCB廃棄物処理/第3・4回(高圧コンデンサ57台)  
● 高効率高圧貫流ボイラー導入(足利)  
● 太陽光発電設備導入(足利・滋賀)

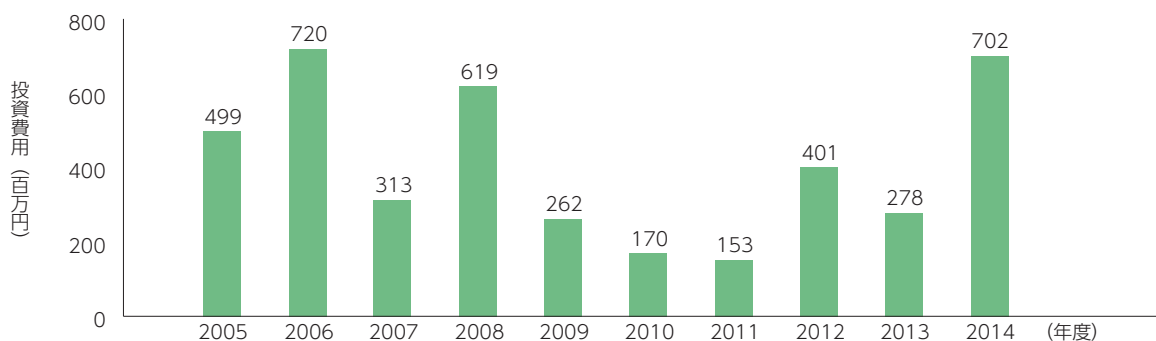
---

- 2013年 ● 太陽光発電設備増設(足利・滋賀)

---

- 2014年 ● 企業行動憲章およびアキレスグループ環境方針改訂  
● 太陽光発電設備増設(足利・滋賀)  
● PCB廃棄物処理/第5回(高圧コンデンサ3台、安定器28台)

### 年度別環境関連設備投資費用(過去10年間)



## 社会との共通価値創造につながる取り組み

### 環境配慮につながる取り組み

当社では、社内で共通する身近な現状業務を見直し、効率化を図ることで経費削減、品質向上などにつなげることを目的とした「AMT(アキレス・ムダ・取り)活動」の静の5S\*としての全社的な定着が進みました。次へのステップとして、作業方法、原材料、製品に至るまでを動の5Sとして、生産革新の推進を図っています。

\*整理・清掃・整頓・清潔・躰

### 製品保管方法の変更

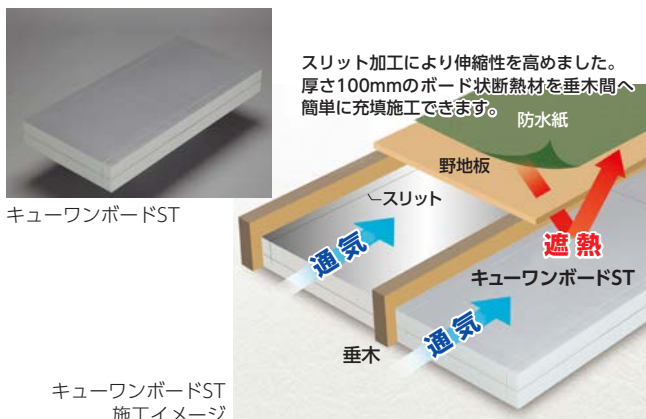
製品保管方法を変更し、フォークリフトの移動時間と回数を短縮、排出ガス削減と作業負担を軽減しました。従来は製品を平面保管し、次工程へは都度、フォークリフトで運搬していました。これを台車保管に変更し人力と併用することで、フォークリフトの使用を3分の1に低減し、さらに2台の台車をまとめて運搬することで、フォークリフトの使用を改善前の6分の1まで低減しました。



### 環境配慮型商品の開発

#### キューワンボードST

2015年4月からの改正省エネ基準実施により、部位間のトレードオフ規定がなくなり、屋根充填断熱には硬質ウレタンフォームで厚さ100mm以上が必要となりました。当社は、厚さ100mmでも垂木の間に簡単に充填施工ができ、通気層が得られる「キューワンボードST」を発売しました。この製品は、優れた断熱性(熱伝導率0.021W/(m・K))と、アルミ箔面材による遮熱性をハイブリッド化させた高性能硬質ウレタンフォーム断熱材「キューワンボード」をベースに開発しました。



### 社会課題解決型商品の開発

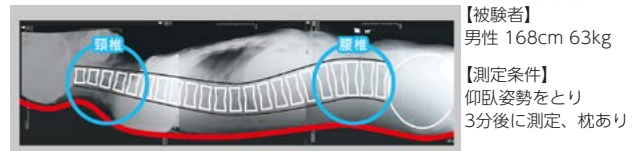
#### 「フレアベル」シリーズ

当社では、快適な眠りに理想とされる体圧分散や寝姿勢の実現を目指し、ウレタンフォーム素材のマットレス「フレアベル」シリーズを全面リニューアルしました。特に「フレアベル SUFRE X(スフレ エックス)」デラックスラインは、早稲田大学の野呂影勇名誉教授と共に、①体圧分散効果 ②頸椎・腰椎の寝姿勢時 ③睡眠効果など、理想的な寝姿勢の維持と寝心地の良さについて科学的な検証を行い、いずれも優れていることが立証されています。また「フレアベル SUFRE X」は、表層に通気性の良い「ムマック\*」フォームを採用し、中間層は体圧を分散し寝返りのしやすい「SUFRE\*」フォーム、下層には「瞬反発\*」フォームを使用することにより、身体をしっかりサポートします。

\*「ムマック」「SUFRE」「瞬反発」は、アキレス(株)の登録商標です



フレアベル SUFRE X



【「フレアベル SUFRE X」頸椎・腰椎の寝姿勢検証結果】

頸椎の彎曲は比較的平坦、腰椎の前弯はかなり保存されており、良好という結果です。マットレスの上では、脊椎の彎曲は、直立時よりやや平坦化が望ましいと言われていました。上図が示すように、自然な寝姿勢が保たれています。\*上記の検証結果は測定値であり、保証値ではありません

#### グラレス

地震対策では、「免震」が理想的な対策方法と言われています。当社では、コンパクトな設計、かつシンプルな構造でありながら、地震によるぐらつきから積載物の転倒、落下などの被害を軽減する室内用小型免震装置「グラレス」を開発しました。本製品は、日本大学理工学部にて性能評価を行い、地震発生時を想定した入力加速度に対して約80%減衰という、高い免震性能が得られています。



テーブルの横揺れ実験 (左)グラレス上の水入りコップ (右)グラレスなし

# 社会と共に

アキレスグループは製品やサービスを通じて、より豊かで快適な社会づくりに貢献することを目指しています。またさまざまなステークホルダーとの対話を通して取り組むべき課題を特定し、その対応に努めることで、社会の持続的発展に貢献したいと考えています。そして「アキレス調達基本方針」を定め、法令遵守や人権尊重などを含む企業の社会的責任 (CSR) への取り組みをサプライチェーンに広める努力を行っています。

## 品質への取り組み

当社は「製品の安全性と品質の確保」を全従業員に徹底するよう、「アキレス行動指針」に定めています。またお客様のニーズや市場動向を的確に捉え、お客様に満足していただける製品・サービスを提供する仕組みの基準として、全事業部で品質マネジメントシステムの国際規格 (ISO-9001) を取得し運用しています。そして「品質保証規定」で、各事業部の事業部長が品質保証の責任者として品質目標を設定し、安全で安心な製品・サービスの提供に努めることを定めています。また品質保証本部は、各事業部の製品企画・開発、生産、販売の各プロセスにおいて、適宜適切な提案を行い、品質保証体制の維持・向上に努めています。

### 品質基本方針

当社は、「社会との共生」＝「顧客起点」の企業理念に基づき、顧客や消費者の立場に立って顧客満足を得られる製品を提供すると共に、製品の安全性確保や関連する法令等を遵守し、社会的責任を果たす為に下記の基本方針を定めます。

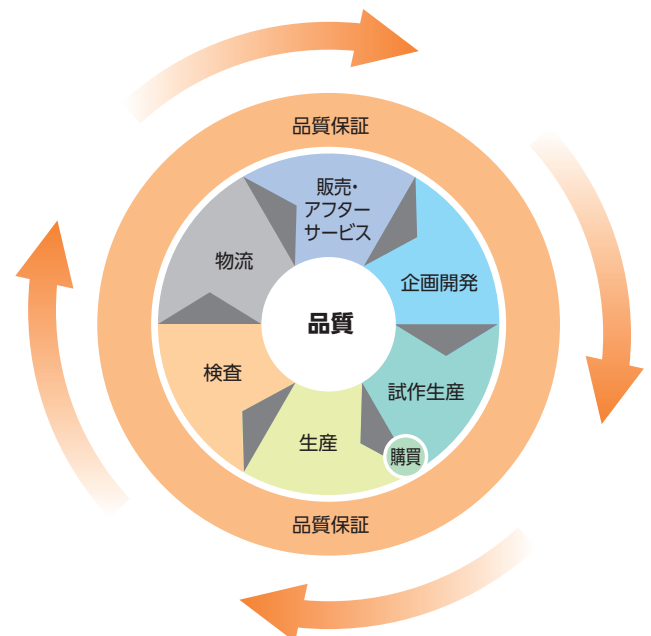
1. 全員が市場の声に耳を傾け、顧客のニーズに応えた魅力ある製品・サービスを提供する。【顧客満足の向上】
2. 使用時の安全性確保は製品の品質保証の中でも重要事項である事を認識し、製品の設計、製造、販売など全工程にわたって製品安全の確保に努める。  
【製品安全の確保】
3. 製品に係わる法令及び当社が同意した規格、顧客基準を遵守する。【法令遵守】
4. 環境負荷低減に配慮した製品の設計、製造、販売活動を行う。【環境への配慮】
5. これらの活動を効果的・効率的に行うために業務を見直し、継続的な改善を進める。【継続的改善】

### ●ISO-9001：2008認証取得状況

登録組織名	取得年月	登録番号
アキレス(株)シューズ部門	2007年10月	JCQA-1663
アキレス(株)プラスチック部門	2003年 4月	JCQA-1251
アキレス(株)産業資材部門	2004年 2月	JCQA-1367
アキレス(株)工業資材部門	2001年12月	JCQA-1020
ACHILLES USA, INC.	1998年 4月	33354
三進興産(株)上尾工場	2006年 9月	JQA-QMA12936

### 品質保証の仕組み

品質保証本部は、各事業部の製品企画・開発、生産、販売の各プロセスにおいて、適宜適切な提案を行い、品質保証体制の維持・向上に努めています。



### 企画・開発

- お客様からのご要望および安全・安心を考慮した製品設計を検討しています。
- 素材および使用材料の安全性の検証をしています(使用禁止化学物質、および健康に影響を与える物質を含まないことを確認)。
- 製品の加工時、施工時、および使用時を想定した要求物性への適合試験を実施しています。
- プロセスごとに品質保証部を交えたデザインレビューを実施しています。



購買

- 企画・開発、製造部門と連携し、使用する材料の安全性、環境性、および調達先の品質保証体制などを調査した後、購買品を選定しています。
- 調達先には「アキレス調達基本方針」の遵守を促すことで、企業の社会的責任 (CSR) への取り組みをサプライチェーンに広めています。また調達活動においていかなる違反行為にも加担しません。

生産

- 製品ごとに生産ラインに適した工程管理と検査方法を定め、効率生産と品質安定化を推進しています。
- 地球環境への負荷低減を図るため、地球温暖化防止と省エネルギー、3R(リデュース、リユース、リサイクル) 活動や大気汚染防止などを推進しています。

- 製品の品質向上および技能レベル向上を目的に、全ての従業員に対し教育指導を実施しています。
- プロセスごとに品質保証部を交えたデザインレビューを実施しています。

販売・アフターサービス

- お客様からの当社製品・サービスへのご相談やお問い合わせは、販売担当部署でお受けする以外に「お客様相談室」でもお受けしています。いずれの窓口でも、お客様のお声に耳を傾け、迅速に対応するように努めています。
- 想定外の重大問題が予想される場合は、お客様の安全を第一に考え、情報開示と迅速な対応を行います。
- 環境対応設計製品に関しましては、お客様が類似他品との環境効果を容易に比較できるように努めています。

労働安全衛生・防火防災への取り組み

アキレスグループ安全衛生方針

「安全の誓い」にうたわれている、「健康にして、安全の確立こそ、会社発展の源であり、私たちの明日への生活向上の基盤であります。私たちは、安全を確保し、人の和を築き、私たちの明日への活力を生み出すことを日々心新たに誓います。」のように、安全と健康の確保は事業活動の基本であり、安全で働きやすい職場環境を確保するために、次の事項を実施します。

1. 安全は全ての基本であり、アキレスグループ従業員一人ひとり、安全を全てに優先します。
2. 安全と心身の健康確保のため、全員参加で、安全衛生活動を積極的に推進します。
3. 安全衛生に関係する法令および会社方針・規則等を遵守します。
4. 安全衛生水準向上のため、労働安全衛生マネジメントシステム等を適切に活用し、継続的改善を図ります。
5. 日ごろより、5S(整理・清掃・整頓・清潔・躰) を欠かさず、安全で衛生的な職場環境を維持します。
6. 全ての従業員に対して、安全衛生の重要性を周知し、必要な教育・訓練を実施します。

主な安全衛生管理活動

安全衛生

各事業場では安全衛生委員会を開催し、従業員へは法・指針に基づいた安全衛生教育の実施、法に基づく各種有資格者の養成など安全衛生体制を確立しています。また、作業・設備のリスクアセスメントを実施し、結果に基づく改善を行い、本質安全化を図っています。



フォークリフト運転業務従事者  
安全衛生教育(足利工場)

安全衛生委員会委員割合

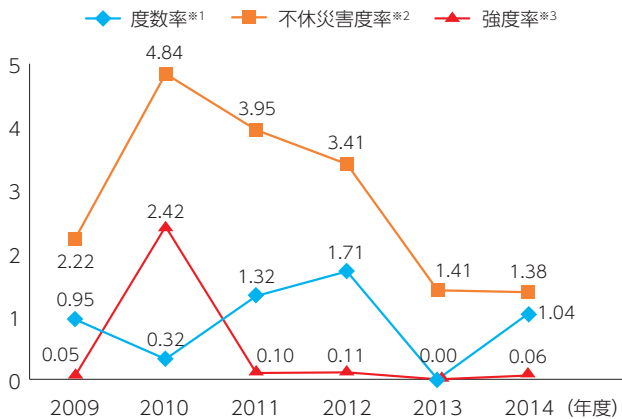
事業場	安全衛生委員 (人)	従業員数 (人)	従業員に対する 安全衛生委員 の割合 (%)
本社	12	259	4.6
関西支社	6	61	9.8
北関東営業所	6	70	8.6
足利第一工場	19	572	3.3
足利第二工場	16	273	5.9
滋賀第一工場	12	100	12.0
滋賀第二工場	14	114	12.3
合計	85	1,449	5.9

※2015年3月31日時点

安全

2014年度の当社における労働災害の発生状況は、下記の通りです。2014年度のゴム製品製造業（従業員1,000人以上）の平均度数率0.49に対し、当社の度数率は1.04でした。また強度率は、ゴム製品製造業（従業員1,000人以上）の平均強度率0.14に対し、0.06でした。

●度数率・不不休害度率・強度率(単体)



※1 度数率=労働災害死傷者数÷延べ実労働時間数×1,000,000  
 ※2 不不休害度率=不不休害者数÷延べ実労働時間数×1,000,000  
 ※3 強度率=延べ労働損失日数÷延べ実労働時間数×1,000

安全への意識高揚のため、年間行事として年2回の安全祈願（年初と全国安全週間初日）を実施し、年間を通じて各種無災害運動（全国安全週間、年末年始、期末）、交通安全運動を実施しています。2014年度は足利・彦根警察署の協力により交通安全講話を実施しました。また社員が各自記入した「安全の誓い」を各職場に年初から掲示し、社員への安全意識の啓蒙を図っています。



出勤時の交通指導(足利工場)

健康管理

定期健康診断および特殊健康診断などを実施し、結果に応じて産業医などによる事後対応の指導を実施しています。健康診断結果以外にも社員の心と身体の悩みに対して、産業医・看護師によるメンタルヘルスケア、健康相談・指導を実施しています。また、THP（トータル・ヘルスプロモーション・プラン）推進活動として、各種健康増進イベントへの参加を促進しています。



健康づくり講演会(足利市)



健康づくり実践教室(足利市)

アキレスグループ防火・防災基本方針

防火・防災は企業の基本管理項目であり、火災発生や地震に代表される自然災害を被ると、それまでの状況が一変して会社存亡の危機に直面することがあります。また、地域住民に多大な迷惑をかけ社会公共の福祉の増進にも反します。

アキレスでは、日頃から緊急事態に備え、身体及び財産を保護する予防措置を講じ、災害発生を未然に防止すると共に、万一発生した場合の人的・物的被害を最小限に抑えることに努めています。

総合防火・防災訓練

各地区で防火・防災委員会を設け、各事業場においては、防火・防災意識の啓発・高揚および防火活動に関する技術の習得を目的とした、総合防火・防災訓練を毎年定期的に行います（製造部門社内火災予防運動は年3回実施、本社・関西支社防災訓練は年1回実施）。

2014年11月足利第二工場において、足利市消防署と連携し総合防火訓練を実施しました。訓練では、構内緊急放送、初期消火、通報、避難、救助、消火栓・消防車放水、点呼訓練を実施しました。また、本部と現地本部を設置し、無線交信を行いました。



足利第二工場での総合防火訓練

心肺蘇生法講習会

2014年10月足利地区では、足利市消防署による心肺蘇生法（人工呼吸、心臓マッサージ、AED機器の取扱訓練）の講習会を行いました。

食料など備品の備蓄

各事業場では、震災などの有事に備えた食料などの備品を備蓄しています。

## お客様と共に

当社は「社会との共生」＝「顧客起点」の企業理念のもと、お客様の真の満足と感動を戴ける製品の創造とサービスの提供を通して、豊かな社会の実現に貢献することを目指しています。またお客様の顕在的・潜在的ニーズを把握するため、お客様との対話の機会を大切に考えています。その役割を担う窓口の一つとして「お客様相談室」を設けています。

お客様相談室では2014年度「6,321件」の「お問い合わせ」と「ご意見」を電話やメールなどで頂きました。貴重な「お客様の声」として全社で共有・活用し、製品・サービスの品質向上に努めています。

### お客様からの声

東日本大震災をきっかけに「20km歩けるパンプス」「スニーカーに近い履き心地」をコンセプトに、「ALL DAY Walk」を発売しました。日本テレビの番組「女神のマルシェ」の企画運営をする株式会社日テレ7様から「プライベートでウォーキングをしている森公美子さんとのコラボで、ファッションを楽しみながらウォーキングができるパンプスを作りたい」とのご提案を頂き、株式会社イトーヨーカ堂様を交えた協業作業で商品開発を行いました。「女神のマルシェ」で紹介され、発売後多くのお客様から商品についてのお問い合わせを頂いています。



ALL DAY Walk

## 株主様と共に

当社は、持続的な成長と企業価値の増大を目指して、グローバルな視点で見た優位性を生かすとともに、独自技術を発揮した製品開発に注力し、社会から求められる企業集団として最善の努力をしていきます。株主・投資家の皆様に対しては、法令を遵守した方法で、タイムリーに、公正で正確な情報を分かりやすく開示することに努めています。そして、情報開示を含むIR活動を通して、株主・投資家の皆様との対話を行っています。

### 報告書・中間報告書

当社ではホームページでの情報開示と併せて、事業概要を分かりやすくとりまとめた報告書を株主の皆様へ半期ごとに年2回お送りしています。報告書では、アキレスの代表取締役社長からの事業環境および業績概要の説明に加え、連結財務諸表、各事業部門の業績・新商品情報、ならびにアキレスグループのトピックスなどをご案内しています。

また当社では、毎年6月に定時株主総会を開催し、株主の皆様

と直接対話を行っています。株主総会終了後には、新商品・新技術をご紹介し、株主の皆様から直接ご意見をうかがう機会を設けています。

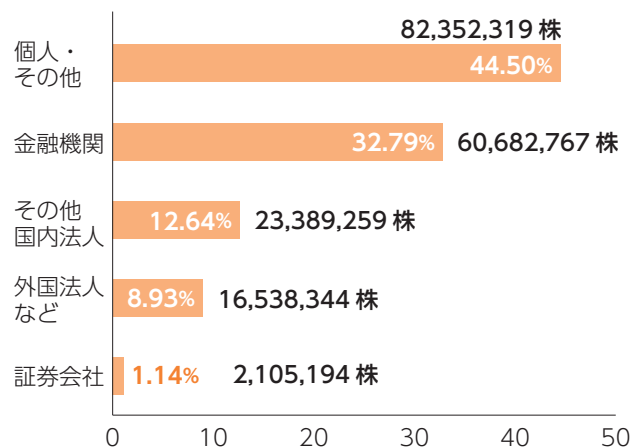


株主の皆様への報告書

### ●株式の総数など（2015年3月31日現在）

発行可能株式総数	700,000,000 株
発行済み株式の総数	190,627,147 株
株主数	17,422 人

### ●株式分布状況（2015年3月31日現在）



※上記のほか、当社保有の自己株式 5,559,264 株があります



## 取引先様と共に

経済のグローバル化に伴い、資源乱開発による環境破壊や人権侵害などの社会的問題が世界共通の課題となっています。社会が継続的に成長するには、これらの課題に対応し健全な市場環境を維持することが必要です。アキレスグループは「企業行動憲章」に従い、法令遵守はもとより倫理的な行動に努め、公正かつ自由な取引を通じてお取引先様と「Win-Winの関係」を目指しています。また「アキレス調達基本方針」を定め、各取引先様に対しても、法令遵守ならびに人権尊重などへの取り組みを広めています。

### 取引先様との対話

当社では、2013年に引き続き2014年も4月に「Achilles THE NEXT」を開催しました。会場では当社の製品や技術を広くご紹介し、ご来場者様からは貴重なご意見を頂きました。頂戴したご意見から新たなビジネスが生まれ始めています。総来場社数は495社でした(お得意先様369社、仕入先様55社、その他71社)。



会場風景



プレゼンテーション風景

### 調達方針

当社は「アキレス調達基本方針」を定め、当社グループのサプライチェーンを構成するお取引先様にも、企業の社会的責任への取り組みを広めています。

#### 【アキレス調達基本方針】

##### 【基本方針】

1. 公正・透明な取引
2. 企業倫理および関連法令の遵守
3. 環境への配慮、保安防災への取り組み
4. 人権尊重、児童労働・強制労働の禁止、労働・安全衛生の配慮
5. 製品・サービスの安全性・品質の確保
6. 個人情報・製品情報を含む情報セキュリティの維持・推進
7. お取引先様との共存共栄
8. お取引先様の知的財産・資産等の適正管理
9. 紛争鉱物\*問題への対応

##### 【お取引先様の選定方針】

- お取引先様の評価・選定の基本方針は以下の通りです。
- (1) 経営状態が健全であること。
  - (2) 安定供給力と生産変動への柔軟な対応力があること。
  - (3) 環境配慮の取り組みを行っていること。
  - (4) 価格・品質・納期・技術力・サービスのレベルが適正であること。

\* 紛争鉱物とは、武装集団の資金源となり紛争を助長、あるいは人権侵害、労働問題などに密接に関連している鉱物。2010年7月に米国で成立した「金融規制改革法」において、コンゴ民主共和国および隣国において産出される鉱物のうち、タンタル、錫、金、タングステン、そのほか国務省が判断する鉱物が紛争鉱物とされた。また米国上場企業に対し、紛争鉱物を使用する場合は米国証券取引委員会（SEC）に報告することが義務付けられた。

## 従業員と共に

アキレスグループは従業員を重要なステークホルダーと位置づけています。「アキレス企業行動憲章」で「従業員の多様性、人格、個性を尊重するとともに、安全で働きやすい健康的な職場環境を確保し、ゆとりと豊かさを実現します」と定め、その実践として必要な制度や活動内容を決定し推進しています。その根幹にある考え方は、従業員との「共存共栄」です。

### 人権尊重・公平

法のもとでの雇用関係を遵守し、違法労働、児童労働や性的差別・人種差別・宗教的差別などの人権侵害を行いません。またこれらの行為に加担しません。全ての従業員に対し公平・均等に機会を与えるように努めています。パワーハラスメント・セクシャルハラスメントを禁止し、社内外に相談窓口を設けています。

### 雇用機会

安定した雇用の維持と雇用機会の拡大を図るため、計画的な雇用に努め、均等な雇用機会を提供しています。

#### ●従業員数(国内グループ会社)

男性	1,279人	女性	254人	合計	1,533人
----	--------	----	------	----	--------

●従業員基本データ(単体)

平均年齢	男性 42.2 歳	女性 43.9 歳	全体 42.5 歳
勤続年数	男性 20.3 年	女性 23.3 年	全体 20.8 年
平均年収	約 573 万円		

●人材(単体)

役員 (執行役員を含む)	男性 21 人	女性 1 人	合計 22 人
部長職	男性 45 人	女性 0 人	合計 45 人
課長職	男性 213 人	女性 4 人	合計 217 人

●定年退職者再雇用制度(単体)

2014 年度制度利用者	147 人
--------------	-------

個人情報保護

個人情報管理規定を設け、そのうち「従業員の個人情報管理」に関する部分を独立した条文として、従業員の個人情報を保護・管理しています。また「従業員の個人情報」については、社内システム上で複数階層のセキュリティを設定し、アクセス可能な人員を限定しています。

福利厚生

各地の事業場所在地には独身寮、社宅などの施設および、社員持株制度などによる社員生活安定の支援を行っています。また少子高齢化社会における仕事と家庭の両立支援策として、育児・介護休業制度などを設けています。

●育児休業制度(単体)

2014 年度 制度利用者	男性 1 人	女性 7 人	合計 8 人
------------------	--------	--------	--------

●介護休業制度(単体)

2014 年度制度利用者	0 人
--------------	-----

●年間平均総実労働時間(単体)

2014 年度実績	1,952.0 時間
-----------	------------

●平均有給休暇取得日数(単体)

2014 年度実績	9.6 日 (51.5%)
-----------	---------------



独身寮/本社

労働組合

労使間での意見交換や協議を定期的に行い、意思疎通に努めています。また健康増進・コミュニケーション向上などを目的とした労使共催の行事により、労使間の交流を図っています。新入社員を迎えるためのソフトボール大会・ボウリング大会は定例行事となり、所属部署の枠を超えて従業員同士の親睦を深めるコミュニケーションの場となっています。



新入社員歓迎ボウリング大会(東京本社)



新入社員歓迎ソフトボール大会(足利地区)



天の橋立ウォークラリー(滋賀地区)



フラワーアレンジメント教室(足利地区)



リンゴ狩り(足利地区)



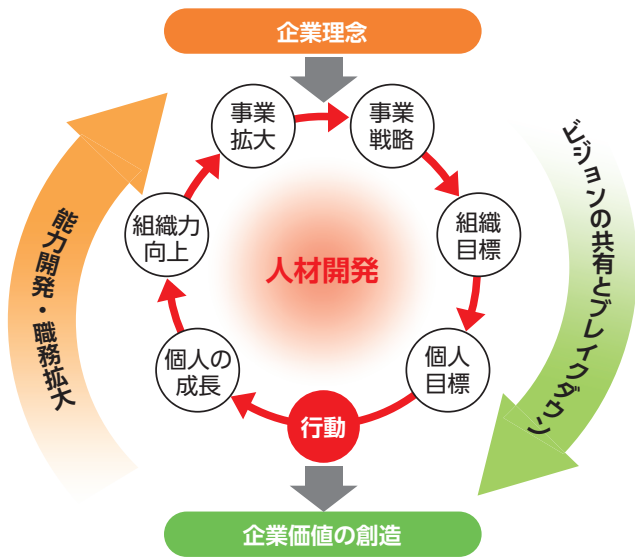
芸術展(足利地区)

人材開発

変化の激しい社会環境の中で生き残っていくためには、社員一人ひとりの人間力の向上を図り、企業価値を次々と創造し続ける集団になることが必要です。そのために、当社では人材開発を積極的に推進しています。「人」という経営資源のパフォーマンスを向上させるとともに、一人ひとりの成果を組織成果に結び付けることで組織全体を活性化し、社員がその能力を存分に発揮しながら生き生きと働ける環境を創り出しています。アキレスグループは、社員一人ひとりの人間力の育成とそれを生かせる組織づくりに取り組んでいます。

【人材開発基本方針】

1. 明確なビジョンを描き、その達成のために適切なリーダーシップを発揮できる人材を育成する。
2. リーダーの描くビジョンを実現するため自ら問題を発掘してその解決を図り、仕事の付加価値を高めることのできる人材を育成する。



人材開発体系

当社の人材開発は人材開発基本方針のもと、社会に必要とされる企業であり続けるために、企業価値の持続的向上に資する幅広い知識・経験と複数の専門性を兼ね備えたリーダーの育成を目指しています。

OJT(オン・ザ・ジョブ・トレーニング=業務内指導)

人材開発の基本はOJTです。上司と連携し半年間の業務目標を決め、課題解決にチャレンジし、半年後にレビューを行います。コミュニケーションを通して気づきを促し視座を高めていきます。

Off-JT(オフ・ザ・ジョブ・トレーニング=集合研修)

各自の役割に応じて求められるスキルや専門知識の習得は、集合研修で支援しています。



管理職研修風景(東京本社)

安全衛生研修風景(足利工場)

SD(セルフディベロップメント=自己啓発)

当社では、社員の能力向上意欲に敬意を表し、補助金支給制度を設けて通信研修を奨励しています。これにより一人ひとりが必要と考える科目を選択し、自分の能力向上につなげています。また社員の教養を高めるために、書籍の斡旋も行っています。

●教育研修体系(単体)

	役員	事業部長	部長	課長	各階層	新人
幹部育成						
グローバル						
管理職						
階層別						
コンプライアンス						
専門性						
OJT 支援						
自己啓発						

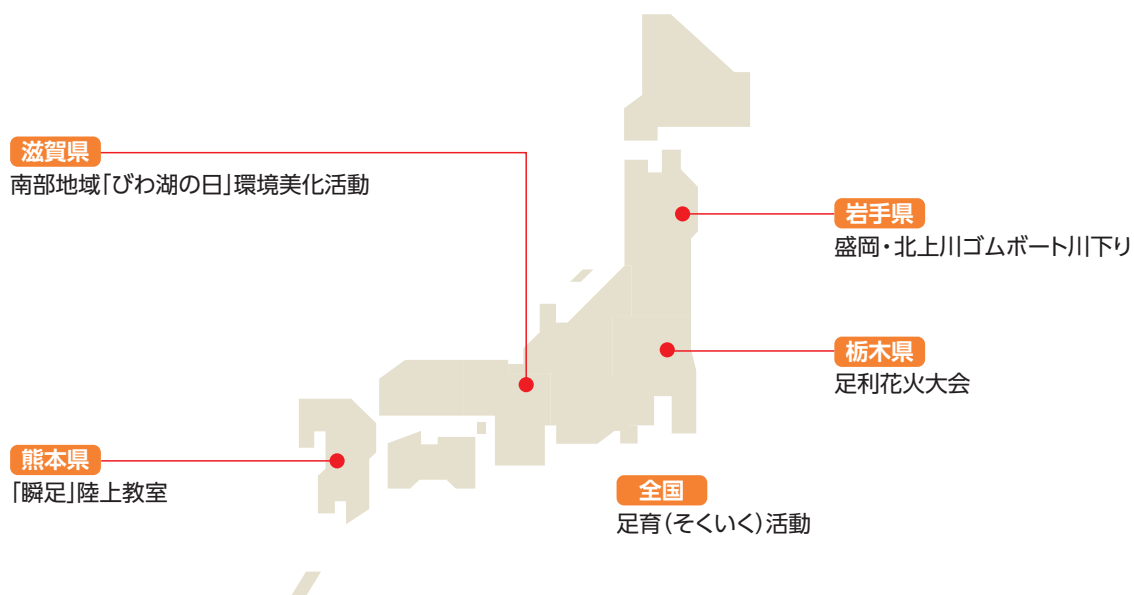
●2014年度の主な集合研修

研修区分	研修数	受講者数
幹部育成研修	5回	46人
グローバル研修	1回	82人
管理職研修	5回	353人
階層別研修 (うち、新人研修)	16回 (6回)	311人 (104人)
コンプライアンス研修	1回	1,492人
専門性向上研修	20回	650人

※コンプライアンス研修はアキレス国内グループ全従業員の実績。ほかの研修はアキレス(株)の従業員の実績



## 地域社会と共に



### 南部地域「びわ湖の日」環境美化活動

滋賀県

「びわ湖の日」は、県民や事業者が琵琶湖などの環境保全について理解と認識を深め、環境保全活動への参加意欲を高める日として、「滋賀県環境基本条例」において7月1日と定められたものです。当社では毎年、滋賀県南部環境事務所主催の環境美化活動に参加しており、湖岸・湖周道路のゴミ拾いと内湖に繁茂する在来種の藻の刈り取り作業などを行っています。



7月1日は「びわ湖の日」



清掃作業

### 盛岡・北上川ゴムボート川下り

岩手県

2014年7月27日「第38回盛岡・北上川ゴムボート川下り大会」が開催され、参加者1,506人、ゴムボート753艇が集結しました。本大会はギネス登録されたこともある世界最大級のイベントであり、ゴムボートを安全かつ効率良く、そして楽しく操船する技術を競い合うと同時に、北上川流域の美しい自然と触

れ合いながら地域経済の活性化に役立つイベントとして、当社を含めた多くの個人や団体が支援を行っています。当社は大会ゼッケンのスポンサーとなるほか、入賞景品の提供、更衣室用の当社製エアテント貸し出しなどを通じて、本大会をサポートしました。



大会会場



北上川の美しい自然の中で競技スタート  
(写真：盛岡市スポーツ推進課提供)



北上川のダイナミックな急流下り  
(写真：盛岡市スポーツ推進課提供)



足利花火大会

栃木県

2014年8月2日に足利商工会議所主催による「第100回足利花火大会」が開催され、アキレスグループも地元企業として協賛しました。同花火大会は1903年に始まった歴史ある大会で、毎年30万人規模の観客でにぎわいます。今回も約2万発が打ち上げられ、花火が夜空を明るく染めるたびに観客から大きな歓声が上がっていました。



クライマックス(写真：足利商工会議所提供)



当社協賛の花火：ナイアガラ



当社協賛の花火：スターメイン

「瞬足」陸上教室

熊本県

当社では、子どもたちに走る楽しみを感じてもらうことを目的に「瞬足」陸上教室を開催しています。2014年は熊本市立白坪小学校で開催しました。指導にあたったのは順天堂大学スポーツ健康科学部の皆様で、日本のトップアスリートの皆様にもデモンストレーターとして応援指導を行っていただきました。4年生から6年生の児童279人が参加し、スタート練習、身体の使い方、コーナーの走り方などを熱心に学んでいました。



熊本市立白坪小学校 (4～6年生の児童)



足育(そくいく)活動

全国

当社では子ども靴を発売することによる社会的責務を強く認識し、発育過程にある子どもの足を守るために「足育宣言」を行っています。当社の子ども靴設計思想と、産学共同プロジェクトパートナーである順天堂大学スポーツ健康科学部バイオメカニクス研究室のさまざまな理論を融合させ、子どもたちの足を守り、育て、子どもたちが楽しく歩き、走ることへの貢献を目指し、普及・啓蒙活動を加速しています。

当社新宿本社ショールームでは、毎週火～木曜日の13:00～

17:20に足育相談を実施しています(完全予約制)。また全国各地の大型ショッピングセンター特設会場でも足育活動を実施するほか、ホームページの受付窓口などからの申し込みに応じて小学校などで出前講座を開き、足に合った靴の選び方、正しい靴の履き方などの情報を提供しています。



当社新宿本社ショールームでの足育相談(東京都新宿区)



日野市立日野第七小学校での足育出前講座(東京都日野市)



京王百貨店新宿店での足育相談(東京都新宿区)

# マネジメントについて

当社の経営の基本方針は、「『顧客起点』のもと、お客様の真の満足と感動を戴ける製品の創造とサービスの提供を通して、豊かな社会の実現に貢献する」という企業理念を実践し、持続的に企業価値を高めていくことにあり、株主の皆様をはじめとする全てのステークホルダーに存在意義を示し、お応えしていく会社になることを目指しています。

この経営方針を実現するために、「経営の効率化」「経営の意思決定の迅速化」および「経営の公正性・透明性の確保」と併せて「経営のチェック機能の充実」を重要課題としています。また、経営の公正性と透明性を高めるために、積極的かつ迅速な情報開示に努めるとともに、インターネットを通じて財務情報の提供を行うなど幅広い情報開示にも努めています。

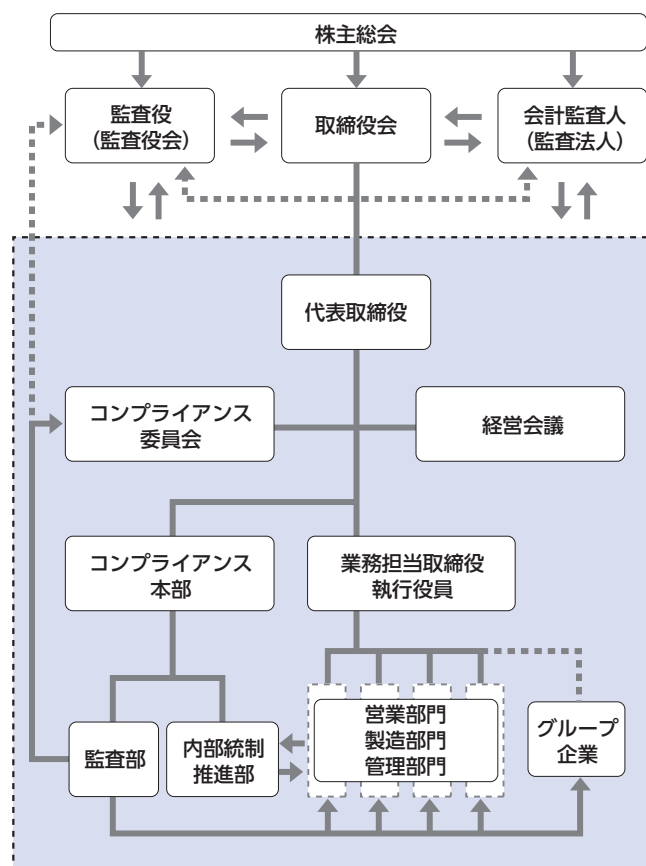
## コーポレートガバナンス

### コーポレートガバナンス体制

当社においては、取締役会が業務執行状況を監督し、業務執行については、各部門を担当する取締役もしくは部門長に責任と権限を与え、経営の効率的な運用を図っています。

また1人の社外取締役が客観的・中立的観点から取締役会を通じて経営の監督機能を発揮するとともに、2人の社外監査役（うち1人は女性）が取締役会に出席し、取締役会の意思決定の妥当性・適法性を社外の視点でチェックしており、十分に経営の監視機能を発揮しています。

### コーポレートガバナンス体制図



### ●取締役会

経営の基本方針、法令で定められた事項、そのほか経営に関する重要事項の審議・決定を行うとともに、取締役の業務執行状況の監督を行っています。

### ●経営会議

意思決定の迅速化と業務運営の効率化を図るための取締役会に付議すべき事項の審議、および取締役会の決定方針に基づく具体的な執行方針やそのほか経営に関する重要な業務執行についての審議・決定を行っています。

### ●監査役会・内部監査・会計監査

監査役会は2人の社外監査役を含む4人の監査役で構成されており、各監査役は監査役会が定めた監査の方針・業務分担に従い、取締役会などへの出席、稟議書などの重要な資料の閲覧、子会社を含む事業所に赴くことなどにより、取締役の職務執行について監査しています。

内部監査部門（監査部）は、監査役との連携を図り、監査役の効率的な監査業務の遂行に協力しています。

会計監査は、有限責任監査法人トーマツを監査人に選任し、監査を受けています。また監査報告会を開催し、監査役会は会計監査人から監査実施状況、監査実施結果などの説明を受けるとともに、会計上と内部統制上の諸問題について助言を得ています。

### ●内部統制システム

取締役の職務の執行が法令および定款に適合することを確保するための体制、そのほか株式の業務ならびに当該株式会社および子会社からなる企業集団の業務の適正を確保するための体制について、「内部統制の基本方針」を定めています。この方針に基づき金融商品取引法に定める財務報告に係る内部統制について、当社および連結子会社における整備・運用の評価を行い、その結果を内部統制報告書として公表しています。

## コンプライアンス

時代の変化に伴い社会的ニーズは変化します。法令や倫理観はその時代の社会的ニーズを映しています。法令を遵守し、倫理的に事業活動を行うことは、企業が社会的責任を果たしていく上での基本的、かつ必須事項です。当社では、法令・定款を遵守し倫理を尊重する企業活動を基本原則として「企業行動憲章」を制定し、さらに具体的な基準として「行動規範」を定めています。役員および嘱託・パートタイマーなどの臨時従業員を含む全ての従業員が、「企業行動憲章」を理解し「行動規範」を守ることを求めています。

### 企業行動憲章

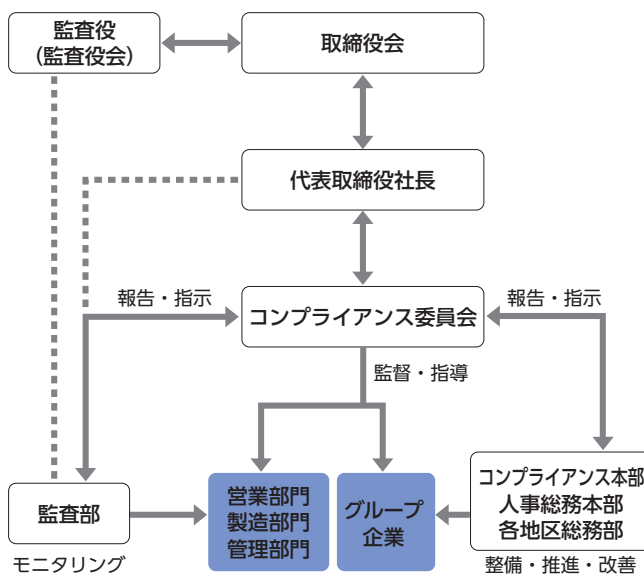
アキレスグループは、新たな価値を創り続けていくことで、豊かで快適な社会づくりに貢献し、高い信頼を得る企業を目指します。アキレスグループは、次の原則に基づき、国の内外において、人権を尊重し、関係法令、国際ルールおよびその精神を遵守しつつ、持続可能な社会の創造に向けて、高い倫理観をもって社会的責任を果たしていきます。

1. 市場・顧客ニーズの的確な把握に努め、安全性・品質・信頼性において優れた製品・サービスを開発・提供し、お客様の真の満足と信頼を獲得します。
2. 公正、透明、自由な競争ならびに適正な取引を行います。また、政治、行政との健全かつ正常な関係を保ちます。
3. ステークホルダーはもとより、広く社会とのコミュニケーションを行い、企業情報を積極的かつ公正に開示します。また、自社の情報・知的財産・資産の保護・管理を適切に行うとともに、お預かりした個人情報・顧客情報など各種情報の保護・管理を適正に行います。
4. 従業員の多様性、人格、個性を尊重するとともに、安全で働きやすい健康的な職場環境を確保し、ゆとりと豊かさを実現します。
5. 環境問題への取り組みは人類共通の課題であり、企業の存在と活動の必須の要件として、環境負荷の低減に主体的に活動します。
6. 地域社会の「良き企業市民」としての責任を果たすべく、社会貢献活動に取り組み、豊かで快適な社会づくりに努めます。
7. 市民社会の秩序と安全に脅威を与える反社会的勢力および団体とは断固として対決し、関係遮断を徹底します。
8. 事業活動のグローバル化に対応し、各国・地域の法令の遵守、人権を含む各種の国際規範の尊重はもとより、文化や慣習、ステークホルダーの関心に配慮した事業活動を行います。

アキレスグループの役員は、本憲章の精神の実現が自らの役割であることを認識し、率先垂範の上、その徹底を図ります。また、社内外の声を常時把握し、実効ある社内体制を整備・運用します。

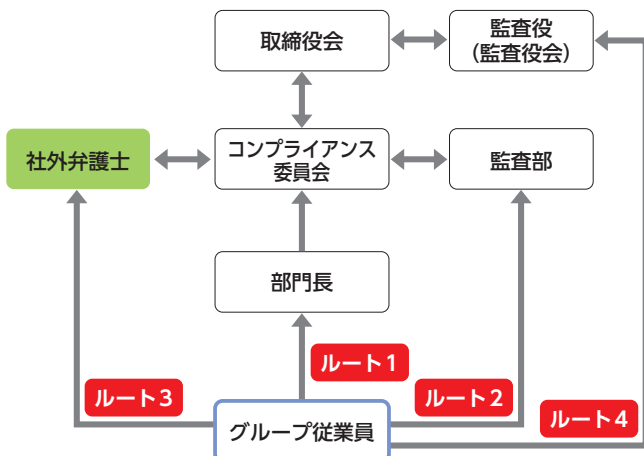
本憲章に反するような事態が発生したときには、経営トップ自らが問題解決にあたる姿勢を内外に明らかにし、原因究明、再発防止に努め、適切に是正措置と処分を行います。

### コンプライアンス体制図



### ホットライン (内部通報制度)

当社は、組織または個人による不正・違法・反倫理行為・アキレス行動指針に反する行為の発生、またはその恐れがあると判断したときに相談、あるいは通報することができる仕組みとしてホットライン (内部通報制度) を整備・運用しています。当社グループの取締役など経営層に関する事項を対象とした監査役直通の窓口を設けるなど受付窓口を複数設置することにより、違法行為などの早期発見と是正を図り、会社のリスクを最小限に抑えるよう努めています。





## CSRマネジメント

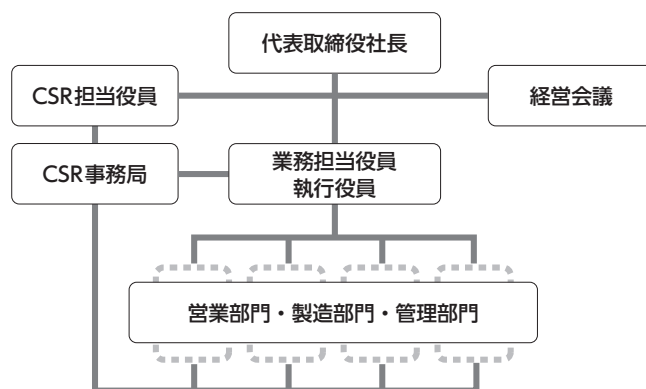
### CSRの基本方針

アキレスグループの全従業員は、社会の一員として責任ある行動に努めることを定めた「企業行動憲章」ならびに、あるべき行動の姿を定めた「アキレス行動指針」の遵守を誓い、信頼される製品やサービスの提供に努めています。また環境負荷低減へ

の取り組みを積極的に行い、ステークホルダーとの対話を通じて、社会的課題の解決に役立つ活動の拡大に努め、社会の持続的発展に貢献します。

### CSR推進体制

当社は企業理念である「社会との共生」＝「顧客起点」の実践こそが、当社のCSR戦略と位置づけ、CSR推進の責任を担うCSR担当役員を選任しています。CSR担当役員は、業務担当役員および執行役員が率先して企業理念に資する活動を推進できるよう、サポートしています。また外部に公表すべき活動内容の検討および報告書の作成作業は、関係部門の中から任命された担当者が担い、社内審査および承認手続きを経た後、外部公表を行っています。



### アキレスのステークホルダー

主なステークホルダー	アキレスグループの主な責任と課題	主な対話および情報開示の機会
お客様	<ul style="list-style-type: none"> <li>●お客様満足度の向上</li> <li>●安心・安全な製品・サービスの提供</li> <li>●製品の取扱方法などに関する適切な情報提供</li> <li>●お客様への迅速かつ適切な対応</li> <li>●お客様（個人）情報の適切な管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日常の営業活動（常時）</li> <li>●お客様相談室（お電話・メール受付）の設置（営業時間内 常時）</li> <li>●ホームページ（常時）</li> <li>●イベント（展示会など）の開催（随時）</li> </ul>
株主・投資家	<ul style="list-style-type: none"> <li>●適時・適切な情報開示</li> <li>●企業価値向上</li> <li>●議決権行使の尊重（株主総会）</li> <li>●IR活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●ホームページ（常時） ●決算短信の発行（年4回）</li> <li>●四半期報告書と有価証券報告書の発行（年4回）</li> <li>●株主様への報告書の発行（年2回）</li> <li>●定時株主総会の開催（年1回）</li> <li>●「アキレスのCSR」（CSR報告書）の発行（年1回）</li> </ul>
取引先	<ul style="list-style-type: none"> <li>●公正・公平な取引</li> <li>●オープンな取引機会</li> <li>●CSR推進への協力要請・支援</li> <li>●適切な情報提供</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日常の調達活動（常時）</li> <li>●イベント（展示会など）の開催（随時）</li> <li>●情報交換会（随時）</li> </ul>
従業員	<ul style="list-style-type: none"> <li>●人権の尊重</li> <li>●労働安全衛生への配慮</li> <li>●ワークライフバランスの促進</li> <li>●労使の相互信頼</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●労使協議会（随時）</li> <li>●トップからのダイレクトコミュニケーション（随時）</li> <li>●集合研修（随時）</li> <li>●講演会の開催（随時）</li> </ul>
地域社会	<ul style="list-style-type: none"> <li>●地域の文化や習慣の尊重</li> <li>●事業場での事故・災害防止</li> <li>●地域社会への貢献活動</li> <li>●環境負荷低減</li> <li>●法令遵守 ●納税</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>●工場見学の実施（随時）</li> <li>●ボランティア参加を含む社会貢献活動の実施（随時）</li> <li>●地域自治体との交流・意見交換（随時）</li> <li>●ヒアリング対応・情報提供など（随時）</li> <li>●産学官での協働などを通じた対話・連携・支援（随時）</li> </ul>



## **アキレスのCSR 2015 詳細版**

発行日：2015年9月 発行：アキレス株式会社

---

### **お問い合わせ先**

#### **【広報部】**

〒169-8885 東京都新宿区北新宿 2-21-1 新宿フロントタワー  
TEL:03-5338-8224 FAX:03-5338-8230

#### **【環境安全推進部】**

〒326-8511 栃木県足利市借宿町 668  
TEL:0284-73-9148 FAX:0284-73-9854